

## 十字架の杯

ヨハネによる福音書一八章一―二二節

イエスはペトロに言われた。「剣を鞘に納めなさい。父がお与えになった杯は、飲むべきではないか。」(二二)

裏切り者ユダに連れられてやってきた祭司長たちの手によってイエスが捕らえられたとき、ペトロは手にしていた剣で斬りかかりました。するとイエスは今日の聖句を語られました。「杯」とは、十字架の苦しみを指しています。ゲツセマネの園において、主イエスは苦しみもだえながら、「父よ、できることなら、この杯を私から過ぎ去らせてください」(マタイ二六39)と祈られたところでした。けれども今、「父がお与えになった杯」と述べて、十字架の死が父なる神の御心であると受け止めておられました。神の御心を知ったからには、「飲むべきではないか」と述べて、神の御旨に自ら進んで従うことを言い表されました。命をかけたこの主イエスの決断によって、私たちに救いの恵みがもたらされたのです。この深い恵みに対して、私たちはいかにして感謝を表すことができるでしょうか。